

●指導の実際

《授業一覧》 ※当日は「向原小中高連携教育地域公開」とし、小6～高1の授業を公開

学年・学級	教科等	資料名〔主題名〕等
向原小6年	道徳	ようこそ、菅島へ！〔郷土を大切に〕
向原中1年	道徳	ぼくのふるさと〔ふるさとのために〕
向原中2年	道徳	三蔵さんの田んぼ〔郷土の一員としての自覚〕
向原中3年	道徳	もう一つの「卒業」〔試行錯誤〕
向原中特別支援学級（知）	生活単元	交流会をしよう
向原高1年	LHR	郷土愛を哲学する



《児童・生徒の振り返りより》

- ・私もこれから色々な人と出会うけど、お互いを認め合いながら生きていきたいし、ふるさとを守っていきたい。
- ・地域の活性化や発展のためにできることは何かを考えた。ふるさとの様々な活動にも積極的に参加してみたい。
- ・これからもボランティア活動や地域の祭り等、伝統や文化を盛り上げる、そんなリーダーを目指したいと思った。
- ・「ふるさと」とは、これまで自分が生まれ育った地域をイメージしていたけど、そこにはいろいろな人との関わり（絆）があるからこそ、離れて暮らしたとしても、生涯忘れられない大切な場所（根っこ）になるのだなと感じた。
- ・向原は高齢化が急速に進んでいると聞いたことがある。そうしたお年寄りに喜んでもらえることがしたいと思った。
- ・大人になったら都会に住みたい気持ちもあるけど、これからも感謝を忘れず、ふるさとを大切にしたいと思う。

《地域・保護者の方々のアンケート結果より》

- ・小中高一貫したテーマでの学習は、人として成長させるための長期計画で良いと思いました。
- ・町内には保小中高が揃っているという好条件を生かした取組を、単発ではなく継続することが大切だと感じます。
- ・地域の人の声を生徒に聞かせる工夫は非常に効果的だったと思います。事前に郷土の人や自然について調べておくと、さらに目的に達しやすいくと思います。
- ・地域に生まれ育つ子供たちを住民とともに育て、小中高が連携し成長を見守り応援していく場ができたことを非常にうれしく感じました。
- ・TTの授業を初めて見ました。一人が生徒の意見をすくい上げ板書し、もう一人が生徒の心に訴えているのが伝わってきました。
- ・授業では輪になり語り合うスタイルから子供の本音を引き出し、子供同士がつながり合うことができると思うし、指導者のまなざしも温かさを感じました。
- ・小学校から高校まで、様々な校種・学年の授業が見られてよかったです。こうした機会はあまりなかったことなので、今後も継続されることを期待します。
- ・子供たちの成長を感じることができました。また、おもてなしの生け花も秋が感じられ素敵でした。

《成果・課題》（ ○成果 ●課題 ）

- 市教委の示す教育方針を踏まえ、さらに目指す児童・生徒像について複数の学校（小中高）が連携した取組を進めることで保護者・地域への情報発信の場となり、今後も学校運営協議会等を活用した高い教育効果につながるものとなった。
- 異なる校種間（小中高）で共通のテーマを掲げ、指導案づくりや授業交流することができたことは、とても意義があった。
- グループ協議での座席（「コの字」型や「円形」型等）にすることで、自分の意見を出すことやお互いの思いを確認し、多様な考えに触れること等ができた。
- 主発問の吟味や、子供同士の意見をつなぐファシリテート等、授業改善への意識改革に役立った。
- 発達段階に応じた総合的な学習の時間との関連性を充実し、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを具体化する必要がある。
- 今後は、地域に根差し郷土への思いや願いを持つ方をGTとしてお招きし、身近な人材を生かした道徳教育の充実を図りたい。
- 児童生徒の学びを見とる視点や、小中高で共通する学習スタイルや児童生徒像を明確に持ち、発達段階に応じた学習となるよう、指導者側の授業改善の取組や研修等が必須である。